

「オンライン授業」「ICT教育」の注意点

教育格差の拡大、学校教育変質の危険性も

広がる「待望論」も「ICT推進」一人歩き

長引く休校の中で、子どもたちの学力保障が問題とされる中で、マスコミや政府、行政などで、「オンライン授業」「1人1台PC」に前のめりの主張がふりまかれています。

もちろん、新しい技術やツールの可能性を活用していくことは、教育効果を上げる上で必要なことです。

しかし、「オンライン授業」万端のようなマスコミの取り上げ方のなかで、とにかく各

学校で「オンライン授業」への着手や、PC配布を何より優先することが「子どもの学習保障」であるかのように一人歩きしている状況です。

具体的な中身や実態からして、十分な論議や条件整備なしの強引な導入・拡大には危険な落とし穴も指摘されています。

子どもの実態、家庭環境が直接反映

学校でZoomによるクラスミーティングなどに取り組んでも、一人親家庭で何人もの子どもを抱え、PC・Wi-Fiがない、落ち着いて画面に向かえないなど家庭環境に大きく左右される実態が明らかになっています。

私立校などでは、時間割を組んでのオンライン授業に取り組むものの、子どもが集中しない、子どもたちも興味・関心が持てないなどの実態も取り上げられています。学習ドリル、学習コンテンツでも、子どもの気分や集中力まかせになり、実際の理解度には保護者からも疑問が投げかけられています。

オンライン授業だけでは不十分であり、子ども、家庭によって大きな格差が拡大するとは明白です。

学習コンテンツも「個人情報流出」つながらない

ICT教育全盛の中で業績を伸ばすベネッセは枚方

市とも協定を結び「未来学習事業」などで「ミライシード」を導入しています。

全国的には、さらに多機能のコンテンツ「Classi」を導入する高校が全国の2分の1、116万人が利用、高額な費用を生徒負担にするところも少なくありません。

しかし、全国で「つながらない」「宿題提出ができない」事態が相次ぎ、「何のための有料サービスなのか」との怒りや苦情が集中しています。

さらに、4月にはこの「Classi」のID122万人分など3500万件の個人情報流出事件も起きています。

政府の狙う「未来の教室」

現在のICT教育は内閣や経済産業省が「経済成長」を狙いと目玉政策として強力に推進しています。

その中では夢のような便利で快適なICT化された教室を描く一方で、基礎基本を中心とした教育内容は民間企業の学習コンテンツ丸投げにして、教師の役割を単なる「コーチング」にせざる狙いが示されています。

アメリカでは、学力テストの成績の悪い学校を民営化。企業が最低賃金の教員免許もないスタッフを配置して、コールセンターのような部屋に子どもたちを詰め込んで、PC画面に向き合い、ひたすらオンラインの学習課題に取り組ませる学校がつけられています。

長引く休校で「コミュニケーションロス、履修優先策」での過重な家庭学習、くすぶる保護者の不安、「不信感」

長引く休校、家庭学習課題づくりに追われる現場

3か月近くに及ぶコロナ感染危機の中の休校で、学校現場では文科省、教育委員会からの指示によって、「適切な家庭学習課題」「家庭学習指導計画」が求められました。

現場では、復習課題にとどまらず、習っていない教科書範囲の課題を課したり、より丁寧にとの意図からにせよ分量が増える傾向もありました。

これは、文科省が長引く休校でも子どもや現場の限界を超えるような新学習指導要領の内容をとにかく年度内に履修させることを優先。

さらには「家庭学習で新学年の教科書も履修したことにする」方針まで打ち出されています。

信頼できる大人たちと、互いを丸ごと受け止め合う子ども同士の人間関係の中で、興味や関心を膨らませ、互いの関わり合いの中で学力を高め、人間としての成長を図る学校が変質させられる危険性から目をめをそらすことはできません。

したことが背景にあります。

高まる保護者の不安、不信感

休校中の課題に対して、保護者から「課題が多すぎてこなすのは無理です」「一人親家庭で、子どもの学習に手が回らない」「もっと学校からフォローしてほしい」という声が電話などで寄せられています。

長引くコロナ感染の休校で、学校・保護者のコミュニケーションシヨロスが大きくなっています。

学校再開後もこの溝を埋めていくために、時間と労力が必要になることは明らかです。

教科書内容をこなすことを優先して、土曜、夏休み削減や授業詰め込みに流れてしまえば、保護者との信頼に成り立つ日本の学校教育が混乱しかねません。

枚方教組 LINE公式アカウント 登録増中

目まぐるしく推移するコロナ感染拡大のなかで、枚方教組組合員はグループラインで積極的に、リアルタイムでの情報交流、意見交換を進めてきました。

職場の教職員にとって必要で重要な情報、考え方をできるだけ広げていこうと、LINE公式アカウントを作成。組合から登録した方へ、必要な情報を届ける取り組みを進めています。

翻弄される学校現場で、本当に知りたい情報を求めているたくさんの教職員から、登録が増加中です。ぜひ登録をお願いします。登録者から公式アカウントへのメッセージを届けることも可能になっています。

枚方教組LINE公式アカウント⇒



【追加提言】登校日の対応と学習課題

前回に紹介して大きな反響があった、大阪教育文化センターの【提言】学校再開に向けた、いまだかつてないとりくみを」に続き、【追加提言】登校日の対応と学習課題」が出されています。ぜひ、一読とご意見をお願いします。

